

【国道一八号 坂城更埴バイパス（延伸）】

坂城更埴バイパス（延伸）は、千曲市街地の交通混雑緩和と交通安全確保を目的とした、千曲市稲荷山から長野市篠ノ井塩崎に至る延長約二・六kmのバイパス整備事業であり、平成三〇年一月に稲荷地区のトンネルが貫通し、現在、改良工事等を推進しております。

【国道一九号 長野一九号防災】

長野一九号防災は、国道一九号の防災危険箇所回避や法面対策、線形不良及び狭小幅員の解消を目的とした、東筑摩郡生坂村竹の本から長野市小市までの延長約四〇kmの防災事業です。このうち、山清路地区として、東筑摩郡生坂村下生坂から大町市八坂瀬口間の延長三・六kmについて事業を進めており、現在、道路設計、トンネル工事を推進しております。

【国道二〇号 下諏訪岡谷バイパス】

下諏訪岡谷バイパスは、国道二〇号下諏訪町内および岡谷市内の交通混雑緩和と交通安全確保を目的とした、下諏訪町東町から岡谷

市今井に至る延長五・四kmのバイパス事業です。

このうち、下諏訪町東町から岡谷市長地間の延長一・七kmについて、道路設計、用地買収を進めており、今後トンネル工事に着手します。

【国道一五八号 奈川渡改良】

奈川渡改良は、国道一五八号の防災機能を向上させるとともに、交通安全の確保を目的とした、松本市奈川から松本市安曇に至る延長二・二kmのバイパス事業で、平成二三年度から権限代行で事業を進めております。令和元年七月に第二号トンネルが貫通し、現在、大白川渡河部の橋梁上部工事を推進しております。

【国営アルプスあづみの公園】

国営アルプスあづみの公園は、長野県北西部の安曇野地域に位置し、大町・松川地区（二五三ha）と堀金・穂高地区（一〇〇ha）の二地区（合計三五三ha）からなる国営公園です。

平成一六年度に堀金・穂高地区の一部を開園して以来、逐次開園区域を拡大し、平成二八年六月に

全園開園しました。現在は、運営維持管理、施設修繕を実施しています。

三、おわりに

当事務所では、渋滞対策等の改築事業の他、防災事業、交通安全対策事業を進めており、さらには、延べ約四二kmにわたる事前通行規制区間や、冬期の積雪、凍結など

厳しい条件下でのきめ細かな道路管理を行っております。

今後も、引き続き、事業の重点化・効率化を図りながら、国民の生活を支えるとともに、ストック効果を発現し、地方創生と、生産性向上に資する道路整備並びに国民に潤いをもたらす公園の管理運営を推進して参ります。

地方公共団体と協働した道路メンテナンスの推進へ

関東道路メンテナンスセンター長

荒川 正秋 氏



関東道路メンテナンスセンター（以下、関東MCといいます。）が、設置されてから二年が過ぎようとしております。

関東MCは、平成三一年四月一

日に設置されてから発足時の次の三つの目的、『①点検データ等を活かした、より戦略的かつ効率的な道路メンテナンスの推進』、『②蓄積されたメンテナンスデータの管理・分析によるアセットマネジメントの導入の検討』、『③道路メンテナンスに係る地方公共団体への支援』を果たすべく邁進してまいりました。その成果の一部となりますがご紹介いたします。

『③道路メンテナンスに係る地



市町村への技術支援：現地調査時に橋梁の状態を説明する関東MC職員

方公共団体への支援』は、発足以降、令和二年一二月までの実績は一九自治体、二九件に上ります。支援の主な内容は、定期点検で確認された損傷や変状、橋梁そのものの状態の評価や、ゲルバー構造等の特殊な部位の調査等の橋梁構造のハー下の内容から国土交通

省の支援制度のソフト的な内容まで多岐にわたります。

関東MCの支援策のうち、相談を受けた橋梁の現地調査を行い、その結果を技術的な助言としてレポートにまとめ、管理者へ報告する取り組みがあり、そのレポートには道路管理者ならではの視点から「今後の維持管理の参考となる知見」も添えて報告しており、好評価をいただいています。

また、地方公共団体への支援の象徴とも言える、令和元年度に実施した秩父橋（埼玉県秩父市）の『直轄診断』の技術助言を受けて、令和二年度に事業化された同橋の修繕代行事業は関東MCが担当することとなり、令和三年度の工事着手に向けて

鋭意遂行しているところです。

一方、定期点検が一巡し、二巡目の定期点検に加えて、修繕も本格化してきたことから、地方公共団体からの相談には補修費用の見立てや考え方の相談も増えてきました。

このように時々刻々と変わる地方公共団体のニーズに対して関東MCが果たすべき役割は、相談の内容や支援を通じたやりとりを分析して、支援メニューを充実させていくことと考えています。

令和二年度は関東MCのウェブサイトの実質や支援内容を具体的に示したリーフレットを作成し、関東地整管内の全市町村へ配布するなど支援の間口を拡げることにも取り組みました。新型コロナウイルス禍による様々な制約もありましたが、着実に支援の実績を延ばすことができたのは、積極的な広報の効果によるものと捉えています。

また、国道事務所と連携した道路メンテナンス会議を通じた相談も着実に増えておりますので、読者の方々にてメンテナンスの悩みがありましたら、各国道事務所の

メンテナンス会議事務局を通じても相談を承りますので、ご一報ください。

国土交通省として取り組んでいるデジタルトランスフォーメーションへの取り組みに、関東MCではウェアラブルカメラや全方位カメラを活用した遠隔による現地確認に取り組み始めたところです。また、支援策に組み込むまでには至りませんが、今後、組み込むことができれば関東MCのみならず有識者や学識者から、リアルタイムに多くの技術支援を受けることが可能となるなど、点検・診断の高度化・効率化の一翼を担うことが期待されます。

最後に、これからも今回紹介した積極的な広報と地方公共団体への支援の過程や結果を分析して改善を図り、メンテナンスサイクルのみならず、より充実した支援体制を構築するためのPDCAサイクルも同時に回して、支援を通じて得られた知見や経験を蓄積して還元する、地方公共団体と協働した道路メンテナンスの推進をはかって参ります。